生誕100年 ちひろカレンダー普及ニュース

発行：原水爆禁止日本協議会　電話:03‐5842‐6031
FAX:03‐5842‐6033　Eメール：antiatom55@hotmail.com

2018年
11月9日
NO.3

【北海道】一人で１００本を突破！核兵器廃絶の願いとともに

長年、沖電気の営業をされており、当時からも仕事を通じて知り合いになった方には原水爆禁止運動をやっていることを話しながら、ちひろカレンダーを購入してもらっていましたという高松修二さん(75才)。現在は国民救援会北海道手稲支部の事務局長や戦争させない市民の風・北海道の活動など、大変お忙しくされています。（写真：今年の世界大会報告会にて）

今年はいわさきちひろ生誕１００年ということで１００本を目標にして、すでに１１０本を普及。今年新たに広げたのが３０人、もっと頑張れば２００本普及もできると自信をのぞかせています。

「断られて当たり前」自分で壁をつくらないことで広がる

高松さんは、ことし８月の原水爆禁止世界大会に参加し、原爆ドームの絵をスケッチし、水彩で色づけた絵をＡ４版の写真にし、出会った方にぜひもらってくださいと手渡しています。そして、なぜ日本政府が核兵器禁止条約に背を向けるのか、などの話をしながら、「ちひろカレンダー」をすすめています。

断られて当たり前なので、いいよと言ってもらえたらラッキー。連絡先を交換し、「また会う時に」というスタンスでひろげています。

市民のスタンディングで出会った方たちや、立憲民主党の市会議員の方にもすすめて買ってもらいました。「ちひろさんの絵、好きなんです」と購入してくれたのは１回しかあったことがないヤクルト販売員さん。「私の家では飾れないけれど、母親の病室に掛けたい」と購入された方もいます。スーパーの中にある靴の修理屋にも「いつもお世話になっているから」と原爆ドームのスケッチ写真を渡したら「じつは母が被爆者で」と思わぬ出会いもありました。

中には、「ちひろさんの絵はきらい。悲しくなる」という活動家の方もいますが、悲しみを描いたちひろさんの思いにもふれ、だからこの運動を理解してくれるなど、いろんな話ができることも楽しみですと高松さん。

「この活動を知らない方にも自分の思いをひろげたいという気持ちがあればひろがります。これからもがんばりまーす！」（聞き取り：日本原水協事務局・大越）